

## 「安全・安心ふくい」充実プラン ～ 平成25年度の推進結果と平成26年度の重点推進事項 ～

県、県公安委員会および県警察では、平成25年4月、治安の更なる向上を図り、安全で安心な福井県を目指すため、「安全・安心ふくい」充実プランを策定しました。

平成27年3月末までの2年間において、

- 戦後最も少ない刑法犯認知件数を目指す
- 刑法犯の検挙率向上、重要犯罪の検挙率100パーセントを目指す
- 交通事故死者数35人以下を目指す

等の基本目標の達成に向け、県警察は犯罪の予防・検挙および交通の指導・取締り等を重点とし、県は広報・啓発に努めることにより、「犯罪の起きにくい社会をつくる」、「子ども、女性、高齢者を犯罪から守る」等の取組項目に基づき、各種治安対策に取り組んでいます。

この結果、平成25年の刑法犯認知件数は5,285件（前年比-147件）と平成15年以降11年連続で減少し、前年に引き続き、昭和50年代前半と同水準を維持することができました。また、重要犯罪の検挙率は84.3パーセントと全国上位（第9位）を維持することができました。

しかしながら、子どもに対する声かけ事案や女性が被害者となるストーカー・DV等の暴力的事案が増加傾向にあり、高齢者を狙った振り込め詐欺等を始めとする特殊詐欺についても、被害件数は減少したものの被害額は増加しました。このほか、交通事故の死者数は57人（前年比+20人）と大幅に増加し、特に高齢者の死者数が33人と全死者数の約6割を占め、全国平均を上回りました。

県、県公安委員会および県警察では、現下の治安情勢を踏まえて、平成26年度の重点推進事項を定めるとともに、引き続き、県民を始め市町および関係機関・団体と協力し、治安の更なる向上を目指してまいります。

## 福井県の治安情勢

### 刑法犯認知・検挙状況

		平成24年	平成25年	増減数	増減率
福井県	認知件数(件)	5,432	5,285	-147	-2.7%
	検挙件数(件)	2,445	2,050	-395	-16.2%
	検挙率(%)	45.0	38.8	-6.2p	
全国	認知件数(件)	1,382,121	1,320,678	-61,443	-4.4%
	検挙件数(件)	437,612	394,123	-43,489	-9.9%
	検挙率(%)	31.7	29.8	-1.9p	

### 重要犯罪の認知、検挙状況

	平成24年	平成25年	増減数	増減率
認知件数(件)	70	51	-19	-27.1%
検挙件数(件)	61	43	-18	-29.5%
検挙率(%)	87.1	84.3	-2.8p	

### 子供に対する声かけ事案等、女性対象犯罪の認知状況

	平成24年	平成25年	増減数	増減率
声かけ事案等(件)	239	253	+14	+5.9%
女性対象犯罪(件)	137	135	-2	-1.5%

### ストーカー、DV事案の認知状況

	平成24年	平成25年	増減数	増減率
ストーカー事案(件)	101	117	+16	+15.8%
DV事案(件)	162	171	+9	+5.6%

### 特殊詐欺（振り込み詐欺・振り込み詐欺以外）の認知状況

	平成24年	平成25年	増減数	増減率
認知件数(件)	31	29	-2	-6.5%
被害総額(万円)	13,285	17,355	+4,070	+30.6%

### 交通事故死者数の状況

	平成24年	平成25年	増減数	増減率
交通事故死者数(人)	37	57	+20	+54.1%
高齢者の交通事故死者数(人)	15	33	+18	+120.0%

## 平成 26 年度の重点推進事項

### 1 犯罪の起きにくい社会をつくる

[ 警察 ]

- 自主防犯活動を活性化するための「ワンアクション！県民防犯運動」を拡大し、県民総ぐるみの防犯活動を推進するとともに、関係機関・団体と連携し、犯罪に強い住環境の整備を一層推進します。
- サイバー犯罪対処能力の向上を図り、不正アクセスやネットワークを利用したサイバー犯罪の取締りを強化するとともに、青少年、保護者およびインターネットカフェなどの事業者に対して被害防止の注意喚起やセキュリティ対策を指導するなど、サイバー空間における県民の安全・安心を確保するための施策を推進します。
- 「いじめは絶対に許されない」という認識のもと、犯罪等の違法行為があった場合には、捜査、補導等の必要な対応を的確に講じます。

[ 県 ]

- 非行少年を生まない社会づくりを進めるため、主要駅周辺や繁華街等を中心に、県、学校、警察、補導員等による青少年非行防止のための一斉補導活動を強化します。
- 青少年が被害を受けやすいネット上の有害情報や無料通話アプリなど SNS の適正な利用方法を保護者等に電子メールで配信します。

### 2 子ども、女性、高齢者を犯罪から守る

[ 警察 ]

- 子ども、女性を狙った犯罪を未然に防止するため、引き続き、声かけ・つきまといに対し、迅速に先制的な指導・警告、検挙を行います。
- 企業や大学における「女性のための防犯講座」の開催などの対策を推進するとともに、ストーカー・DV 事案等の人身安全関連事案に対する体制を充実し、被害者の安全確保を最優先にした対応を推進します。
- 高齢者を狙った特殊詐欺の被害を防止するため、出前講座や街頭広報活動を通じて注意喚起を行うとともに、金融機関やコンビニエンスストア等と連携し、被害防止のための声掛けの促進や情報共有を図るなど、水際対策を一層強化します。

[ 県 ]

- 子どもの安全・安心を確保するため、「子ども重点見守りデー」を県下全 200 小学校区で実施し、「地区別防犯活動連絡会」を県下全 75 中学校区に設置します。
- 見守り活動を行う事業所と車両をさらに拡大し、民間企業等による見守り活動を充実します。
- 地域住民の意見を踏まえて見回りを強化する重点校区を市町が選定し、地域による女性を守る巡回指導を促進します。
- 高齢者向けの消費生活教室に加え、新たに自治会役員が直接高齢者宅に出向いて注意喚起を行い、高齢者を狙った詐欺等の防止対策を強化します。

### 3 犯罪の取締りを強化する

#### [ 警察 ]

- 体感治安に大きな影響を及ぼす殺人や強盗などの重要犯罪や空き巣、忍込みなどの窃盗犯の検挙率向上に向けて、捜査活動に全力で当たります。
- 暴力団、来日外国人等による組織犯罪や、薬物・銃器事犯の取締りを徹底するとともに、行政、関係機関・団体と県民が一体となった暴力団排除活動を推進します。
- 振り込め詐欺等を始めとする特殊詐欺の検挙を徹底し、あわせて口座開設詐欺等の助長犯罪の取締り、犯行に利用される口座や携帯電話などの犯行ツールの無力化対策により特殊詐欺の撲滅を推進します。
- 悪質商法を始めとする生活経済事犯の取締りを徹底するほか、被害の拡大防止と被害回復対策を推進します。

### 4 交通事故から県民を守る

#### [ 警察 ]

- 白バイ、パトカーの機動力を活かし、交通情勢に応じた不規則なパトロール活動を行い、ドライバーへの注意喚起を効果的に実施します。
- 高齢者の交通事故を防止するため、高齢者交通安全リーダー等による個別指導、反射材普及協力店（8社53店舗）の拡大による反射材の普及活動のほか、新たに、「歩行環境シミュレーター」等を活用した参加・体験型の出前講座を推進します。
- 高齢者の加齢に伴う身体機能低下の自覚を促すため、運転適性診断や個別指導を行うほか、自動車教習所における実車講習を推進します。

#### [ 県 ]

- 高齢者の交通事故を防止するため、民間企業等と協力して従業員から高齢の家族等に対して身近な立場から反射材着用や免許返納を呼びかけます。
- 民間企業と連携して従業員に対する安全運転教育を徹底します。
- 幹線道路や通学路等において、交通関係協力団体に加え、新たに「交通安全実践事業所」800社の参加を得て街頭啓発活動を実施し、スロードライブの意識の定着を推進します。
- 民間企業等による免許返納者への支援充実を促進することにより、免許返納しやすい環境を整備します。
- 高齢運転者を対象に加齢による反射神経の衰えを自覚する安全運転教室を実施します。

## 5 テロ、大規模災害等から県民を守る

[ 警察 ]

- テロを未然に防止するため、原子力関連施設における24時間体制での警戒警備を継続するとともに、地域住民や民間事業者等と連携し、その協力を得て行う官民一体の日本型テロ対策を更に推進します。
- 原子力発電所を含む重要インフラに対するサイバーテロを未然に防止するため、共同訓練や最新情報の共有等の官民連携をより一層強化します。
- 東日本大震災の反省・教訓を踏まえ、大規模災害における警察の対応について具体的な検討を行い、危機管理体制の充実強化を図ります。

## 6 治安基盤を強化する

[ 警察 ]

- 犯罪の多様化・複雑化等に的確に対応するため、捜査指揮能力の向上および合理的・効率的な捜査を推進するとともに、客観的証拠に基づく捜査、被害者の立場に立った適切な対応等、緻密かつ適正な捜査を推進します。
- 第一線の警察機能を最大限に発揮し、県民の期待と信頼に応える強い警察を確立するため、若手警察官の早期戦力化を始めとする教養の充実、治安の要となる警察施設の整備等、人的・物的基盤の強化に取り組みます。

## 平成 25 年度の推進事項

### 取組項目

#### 第1 犯罪の起きにくい社会をつくる

##### ■ 県民と協働した地域の防犯力向上

[ 警察 ]

#### 1 「ワンアクション！県民防犯運動」を推進するなど、県民総ぐるみの防犯活動の実施

県民総ぐるみの防犯活動を実施するため、平成24年1月から取り組んでいる「ワンアクション！県民防犯運動(※)」を推進し、県民の半数に当たる40万人の参加を目標に、これまで約30万枚の参加者カード(ワンアクションカード)を配付するなど、県民の防犯意識の向上に努めました。

(※) 県民の一人一人が、簡単にできる防犯活動の一つ宣言して実践する運動



ワンアクションカード

#### 2 防犯隊やふくいマイタウン・パトロール隊、青色回転灯を装備した車両による自主防犯パトロールに対する支援の実施

警察官と防犯団体による合同パトロールの実施、地域安全情報の提供、研修会における活動への助言等の技術的支援を行いました。

- ・ 防犯隊(県下全市町で結成) 17団体、3,455人
- ・ ふくいマイタウン・パトロール隊 209団体、11,828人
- ・ 青色回転灯によるパトロール団体 154団体、640台



合同パトロール出発式

#### 3 リュウピーネット等による、子どもを犯罪から守る情報や県内に波及するおそれのある犯罪情報など地域安全情報の提供

平成25年のリュウピーネット発信回数は228回、安全・安心マップへのアクセス件数は7,056件でした。

安全・安心マップは、声かけ事案や街頭犯罪、交通事故の発生状況等を表示しており、自主防犯活動等に活用されています。



安全・安心マップ

##### ■ 犯罪情勢に即した抑止対策の推進

[ 警察 ]

#### 1 「福井県自転車盗難防止ネットワーク」や「福井県万引き防止ネットワーク」等の罪種別ネットワークと連携した抑止対策の推進

平成25年8月、急増する自転車盗難被害を抑止するため、「福井県自転車盗難防止ネットワーク緊急対策会議」を開催し、参加団体等による駐輪場での鍵かけ、放置自転車の撤去、広報啓発等を推進しました。

また、「福井県万引き防止ネットワーク」を活用した情報提供、県警察で策定した「万引き防止モデル基準」に基づく、店内放送の実施や防犯カメラの設置等、万引きが発生しにくい環境の整備促進に努めました。



駐輪場における鍵かけ活動

## 2 防犯性能の高いガラス、ドア、鍵等の普及・促進による犯罪に強い住環境の整備

「福井県安全で安心なまちづくりの推進に関する条例」に基づき、出前講座等における住宅を対象とする侵入犯罪の被害防止広報、公益社団法人福井県防犯協会が実施する「防犯モデル一戸建て住宅認定制度」の紹介等、犯罪に強い住環境の整備促進に努めました。

## 3 赤色回転灯付自転車による街頭パトロールや職務質問、主要交差点での駐留警戒の強化など、警察官の「見える・見せる活動」による犯罪の未然防止対策の推進

犯罪多発地域における赤色回転灯付自転車を活用したパトロールや駐留警戒、職務質問による犯罪検挙等の「見える・見せる活動」を推進しました。

特に平成25年は、巡回連絡を強化し、地域住民の意見・要望の把握、犯罪被害や交通事故防止のための情報提供等、地域に密着した活動を推進しました。

	H24	H25	増減
街頭犯罪等8類型※の認知状況	1,949	1,922	-27

※ 車上ねらい、自動販売機ねらい、自動車盗、オートバイ盗、自転車盗  
空き巣、忍込み、住居侵入

## 4 事業所等による街頭防犯カメラの設置促進

事業所、商店街等による街頭防犯カメラの設置促進を図るため、助成金制度の紹介や技術的支援を行いました。

平成25年度は、坂井市内の商店街が防犯カメラを新設するに際して、設置方法や運用ルールに関する助言等を行いました。

## 5 サイバー空間における安全・安心の確保に向けた官民一体となった取組の推進

サイバー犯罪の知識技能に精通した警察官(サイバー犯罪アドバイザー)を育成し、人的基盤を強化するとともに、サイバー関連事業者等との連絡協議会の開催、中高生や民間事業者等を対象とした被害防止講習の実施等、サイバー空間の安全と安心を確保するための対策を推進しました。

- ・ 福井県インターネットプロバイダ防犯連絡協議会 9事業所 1団体
- ・ 福井県インターネットカフェ連絡協議会 11事業所



巡回連絡



街頭防犯カメラ



福井県インターネットプロバイダ防犯連絡協議会

## ■ 非行少年を生まない社会づくり

### [ 警察 ]

#### 1 少年警察ボランティア等と連携した立ち直り支援活動の推進

非行少年等の立ち直りを支援するため、少年警察ボランティアの少年警察協助手(県下14地区、360人)等と連携して、環境美化活動、農作業体験、料理教室等の居場所づくり活動に取り組みました。

平成25年は、アニマルセラピーを拡充し、水族館での海の生き物とのふれあい体験、犬猫ボランティア(里親募集活動)等を実施しました。

- ・ 居場所づくり活動 合計42回、参加少年延べ51人



ペンギンとのふれあい体験

## 2 学校現場において非行防止教室を開催するなど、少年の規範意識の向上

少年の規範意識を向上させるため、自転車盗や万引き等の初発型非行を防止する非行防止教室(ひまわり教室)に取り組んでいます。

平成25年は、非行少年が一昨年に比べて増加した中学生に重点を置いて実施し、学校や保護者等の要望に基づいて、インターネット関連被害防止教室や薬物乱用防止教室も併せて行いました。

- ・ ひまわり教室 県下中学校78校中70校(90%)、140回実施



非行防止教室(ひまわり教室)

## 3 サポートセンターだより等による家庭・学校・地域での少年を見守る社会気運の醸成

福井少年サポートセンターは、少年警察補導員・少年相談専門員を中心に15人体制で運用しています。非行少年の立ち直り支援や犯罪被害少年のカウンセリングのほか、「サポートセンターだより」による地域への情報発信を行い、少年を見守る社会気運の醸成に努めました。



サポートセンターだより

## 4 スクールサポーターの活動を充実するなど、いじめ問題や校内暴力に対する的確な対応

平成25年度は、警察と学校とのパイプ役であるスクールサポーター3人を増員し、10人を8警察署に配置して生徒の非行防止や安全確保に取り組んだほか、「心をつなぐポストカード」を県内の全中学生に配付し、いじめ等の悩みの早期把握と解決に努めました。

また、5月から、警察と県教育委員会との間で締結した「福井県学校・警察連携制度」の運用を開始し、情報共有体制を強化しました。



学校・警察連携制度の締結

### [ 県 ]

## 1 青少年が集まりやすいコンビニエンスストアやスーパー、駅構内等における夜間街頭巡回指導の実施

巡回指導員が、深夜はいかいの多い繁華街や深夜営業施設等への巡回を実施し、青少年の帰宅指導や喫煙防止の呼びかけを行うなど、青少年の非行防止を図りました。

- ・ 夜間の巡回指導実施箇所数 5,555箇所



指導員による夜間巡回指導

## 2 保護者に対しインターネット上にある最新の有害情報等を提供するなど、青少年を有害環境から守る対策の推進

青少年をインターネット上の犯罪被害から守るため、ネットを利用した犯罪の最新情報や無料通信アプリケーションソフトを利用する上での注意点等を保護者に配信し、家庭内でのネット教育を支援しました。

- ・ 保護者等に対するインターネット上の犯罪等に関する情報提供 50件



## 第2 子ども、女性、高齢者を犯罪から守る

### ■ 犯罪から守る対策の推進

#### 【子ども、女性を守る】

##### [ 警察 ]

#### 1 声かけ、つきまとい等の前兆事案に対する先制・予防的警察活動の推進

平成25年の先制・予防的活動の推進結果は、検挙32件、指導・警告87件でした。

##### 【前兆事案に対する検挙、指導・警告件数】 (単位: 件)

	H24	H25	増減
検挙	35	32	-3
指導・警告	97	87	-10



子供女性安全対策室員の活動

#### 2 被害防止意識の啓発のため、学校等における不審者対応訓練の実施

声かけ事案等の情報を学校等と共有するため、各警察署の生活安全担当課長を連絡責任者に指定して体制を強化したほか、参加・体験型の不審者対応訓練を実施するなど、被害防止意識の向上に取り組みました。

- ・ 不審者対応訓練 197回
- ・ リュウピーネットによる不審者情報の発信 106件



不審者対応訓練

#### 3 女性の自主防犯力、防犯意識向上に向けた取組の推進

女性が多い企業等における防犯知識を備えた女性相談員「レディースガードリーダー」の育成(平成23年から3か年計画)を推進したほか、企業や大学等での「女性のための防犯講座」の開催を継続するなど、女性の自主防犯力、防犯意識の向上に取り組みました。

- ・ レディースガードリーダーの育成 142企業、402人
- ・ 女性のための防犯講座 63回



レディースガードリーダー講習会

#### 4 警察音楽隊、シンボルマスコット等を活用した防犯広報の推進

夏休みや年末等の犯罪発生が予想される時期を捉え、各地区のイベント会場等に警察音楽隊やシンボルマスコット「リュウピー君」「リュウミーちゃん」を派遣し、犯罪被害や交通事故防止のための広報啓発活動を推進しました。



越前市サマーフェスティバルにおける防犯広報

##### [ 県 ]

#### 1 関係機関・団体と連携した地域ぐるみで見守り活動の実施

##### ○ 「子ども重点見守りデー」を設定するなど、小学生の登下校時間における見守り活動の実施

安全点検の結果を受け、危険箇所を有する校区を中心に、「子ども重点見守りデー」を実施し、地域ぐるみによる小学生の安全対策を強化しました。

- ・ 「子ども重点見守りデー」での見守り活動 191小学校区



鯖江市立待小学校における子ども重点見守りデー

### ○ 中学生の下校時間における地域ボランティアによる巡回活動の強化

全中学校区において月1回以上巡回パトロールを実施し、下校時間帯の安全確保を行いました。

- ・ 中学校区での月1回以上のパトロール 76中学校区



中学校区で巡回活動を行う地域ボランティア

### ○ 郵便局や新聞販売店等、地域に密着した事業所が参画した子ども見守り活動の「見える化」の推進

見守り活動研修会を実施し、地域で配達業等を営む事業所に対して車両にステッカーを貼った見守り活動への参加を呼びかけ、活動の「見える化」により見守り活動を強化しました。

- ・ 見守り活動ステッカーを使用した事業所の車両台数 4,063台

### 2 夜間暗く危険な通学路へのLED防犯灯の整備による明るく安心な通学路の拡大

市町が行ったLED防犯灯の新設に対し支援を行い、夜間においても明るく安心な通学路を拡大しました。

- ・ LED防犯灯 479基設置



LED防犯灯

### 3 女性を狙った犯罪が起りやすい場所での地域住民による帰宅時間帯重点パトロールおよび被害に遭わないための防犯意識を高める啓発活動の実施

全県下において、地域住民による女性が不安を感じる場所における重点的なパトロールを実施しました。また、学校やイベント会場等での啓発活動を実施し、女性の防犯意識向上を図りました。



地域住民による無人駅のパトロール

### 【高齢者を守る】

#### [ 警察 ]

### 1 高齢者を狙った振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺、悪質商法等の被害防止対策の推進

「福井県振り込め詐欺撲滅ネットワーク」と連携した広報啓発、金融機関職員による被害防止のための声かけの促進、ATM集中警戒等を継続して実施したほか、平成25年7月には、福井県後期高齢者医療広域連合が被保険者証を送付する際に注意喚起チラシを同封し、被害防止意識の啓発を行いました。

さらに、11月から、コンビニエンスストアや量販店のATMを利用した被害を防止するため、コンビニエンスストア店員用対応マニュアルを作成して県下に配布したほか、量販店ATMコーナーに音声案内機を設置するなど、被害防止対策を強化しました。



ATM集中警戒



注意喚起チラシ

[ 県 ]

1 見守りネットワークを結成するなど、高齢者を地域で支えるための体制づくりの推進

高齢者等が地域で安心して暮らせるよう、地域での見守り活動や日常生活の支援活動を担う人材を県下全域で育成し、地域住民のつながりによる「見守りネットワーク」づくりを進めました。

- ・ 見守りネットワーク結成数 1,548 件
- ・ 地域見守りサポーター養成数 6,952 人

2 高齢者施設等における消費生活教室、出張相談会の開催による高齢者への啓発活動の強化

高齢者世帯や独居高齢者世帯の訪問活動等を行う、老人家庭相談員の研修会において、消費生活教室を実施するとともに、高齢者が集まりやすい福祉施設等で重点的に出張相談会を開催しました。

- ・ 高齢者施設等における消費生活教室 36回開催、2,102人参加
- ・ 福祉施設等での出張相談会 25回開催



高齢者を対象とした消費生活教室

■ 警察安全相談等への対応の充実

[ 警察 ]

1 ストーカー、DV事案等に対する相談・支援体制の充実と迅速・的確な対応

近年、増加傾向にあるストーカー、DV事案等の相談に対応するため、5警察署(福井、福井南、鯖江、越前、敦賀)に相談を専門とする女性警察官を配置するとともに、警察本部の当直に女性警察官を配置して24時間体制で対応するなど、相談・支援体制を拡充しました。



女性警察官による相談対応

2 レディースパートナー(女性警察職員)を拡充するなど、女性相談者の立場に立った適切な対応の推進

女性特有の犯罪被害等の相談に対応するため、女性警察職員45人(前年比+16人)をレディースパートナーに指定して体制を強化したほか、相談対応方法等の研修を行い、相談者の立場に立った迅速・的確な対応に努めました。



レディースパートナー研修会

3 児童虐待事案や高齢者虐待事案に関する相談・支援の推進および早期発見・保護活動等の強化

被害者の安全を最優先に考え、県・市町との連携を強化して情報を共有するとともに、刑罰法令に抵触するときは事件化を図るなど、児童虐待や高齢者虐待事案の早期発見および被害防止対策を推進しました。

4 警察安全相談窓口の周知徹底と利用促進

県警察ホームページの相談窓口に関する内容を充実したほか、9月11日(警察相談の日)に広報活動を行うなど、相談窓口や専用電話番号「#9110」の周知と利用促進に努めました。



ラジオ放送による「警察相談の日」の広報

	H24	H25	増減
警察安全相談の受理件数(件)	10,654	12,780	+2,126

## ■ 被害者支援の充実

### [ 警察 ]

- 1 専門的知識を有する女性警察職員の育成・配置による犯罪被害者の心情に配慮した対応の推進
- 2 命の大切さを学ぶ教室の開催など犯罪被害の実態や被害者支援の必要性等に関する啓発活動の推進

警察職員243人(うち女性警察官29人)を指定被害者支援要員に指定し、被害者の心情に配慮した対応に努めたほか、中高生等を対象とした「命の大切さを学ぶ教室」や高校生・大学生を対象とした「性犯罪被害者支援研修会」を開催するなど、「社会全体で被害者を支え、被害者も加害者も出さない社会をつくる」気運の醸成に努めました。

	H24		H25	
	開催校	聴講数	開催校	聴講数
命の大切さを学ぶ教室	20校	約8,100人	20校	約6,100人
性犯罪被害者支援研修会	1校	約200人	9校	約2,100人



命の大切さを学ぶ教室

### [ 県 ]

- 1 福井被害者支援センター等の相談窓口の周知による被害者が安心して相談できる環境づくりの推進

新聞広告に、福井被害者支援センターに関する記事の定期的掲載や犯罪被害者等のための相談窓口総合パンフレットの作成により、被害者が安心して相談できる環境をつくりました。

- 2 犯罪被害者等による講演DVDの作成など犯罪被害の実態や被害者支援の必要性等に関する啓発活動の推進

被害者遺族による講演DVDを作成し、市町の犯罪被害者総合相談窓口を設置することにより、県民が被害者支援の必要性について考える機会を広げました。



啓発用講演DVD

### 第3 犯罪の取締りを強化する

#### ■ 重要犯罪等の取締り

[ 警察 ]

#### 1 捜査支援システムの整備・活用による殺人・強盗など凶悪犯罪の検挙

緊急配備支援システム等の各種捜査支援システムの整備・活用により迅速的確な初動捜査を推進し、県民の体感治安に大きな影響を及ぼす重要犯罪等の検挙に努めました。

【主な検挙事例】

- ・ 織物工場における現住建造物等放火未遂事件 (H25. 4 勝山)
- ・ 福井市内のマンションに侵入し金品を強取した強盗事件  
(H25. 11 捜査第一課、福井 合同捜査)
- ・ 福井市内の路上において男3人が金品を強取した強盗傷人事件  
(H25. 12 捜査第一課、機動捜査隊、福井、鯖江 合同捜査)

【重要犯罪の認知・検挙件数】

	H24	H25	増減
認知件数(件)	70	51	-19
検挙件数(件)	61	43	-18
検挙率(%)	87.1	84.3	-2.8p

※ 重要犯罪:殺人、強盗、放火、強姦、略取・誘拐、強制わいせつ



証拠品を捜索する捜査員

#### 2 他の都道府県警察との合・共同捜査の推進による広域重要窃盗事件の検挙

現場観察や手口分析等により犯人の広域性を予測して、他の都道府県警察との情報交換、捜査員の派遣等の連携を図り、広域窃盗事件の検挙に努めました。

【主な検挙事例】

- ・ 5管区9県で発生したロシア国籍の男2人による広域窃盗(自販機ねらい)事件 (H25. 7捜査終結 福井県警察、山口県警察等 共同捜査)



被害に遭った自動販売機

#### ■ 県民が身近に不安を感じる犯罪の取締り

[ 警察 ]

#### 1 積極的な職務質問による街頭犯罪の徹底検挙

自動車警ら隊ならびに警察署の交番、駐在所および自動車警ら係によるパトロールを強化するとともに、広域技能指導官等による職務質問の指導を充実し、職務質問による街頭犯罪の徹底検挙を推進しました。

【地域警察官の職務質問による犯罪検挙】

- ・ 刑法犯検挙件数 547件(前年比 -39件)
- ・ 特別法犯検挙件数 113件(前年比 +23件)

【検挙が増加した主な犯罪】

- ・ 窃盗(侵入盗) 51人(前年比 +11人)
- ・ 覚せい剤取締法違反 23人(前年比 +11人)
- ・ 銃砲刀剣類所持等取締法違反 27人(前年比 +6人)
- ・ 軽犯罪法違反 37人(前年比 +17人)



夜間パトロール

## 2 侵入センサー等の監視装置の活用による住宅侵入犯罪の検挙

侵入センサー等の監視装置の活用を図り、犯行を予測した捜査を推進するなど、住宅侵入犯罪の検挙に努めました。

### 【主な検挙事例】

- ・ 福井市内における連続忍込み事件 (H25. 12 福井南)

## 3 振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺の検挙

他の都道府県警察と合同捜査を行うなど、犯行グループの取締りを強化するとともに、口座開設詐欺等の助長犯罪の取締りを推進しました。

### 【主な検挙事例】

- ・ 警察官を装って現金を騙し取ったオレオレ詐欺事件 (H25. 6 小浜)
- ・ 会社会員権取引を装い現金を騙し取った金融商品取引名目詐欺事件 (H25. 7 福井県警察、警視庁等 合同捜査)



押収した電話等の犯行ツール

## ■ 子ども、女性を狙った犯罪の取締り

### [ 警 察 ]

#### 1 児童ポルノ事犯など福祉犯の取締り

携帯電話のコミュニティサイトや無料通信アプリケーションソフトを悪用した児童買春・児童ポルノ事犯等、悪質な福祉犯の取締りを強化しました。

### 【主な検挙事例】

- ・ 無料通信アプリケーションソフトを利用した県青少年愛護条例違反事件 (H25. 8 少年課、越前/H25. 9 少年課、あわら 合同捜査)
- ・ ファイル共有ソフトを利用した児童ポルノ公然陳列事件 (H25. 9 少年課、敦賀 合同捜査)

#### 2 強制わいせつなど女性を対象とした卑劣な犯罪の検挙

女性警察官が相談から解決まで一貫して捜査する女性選抜捜査班(捜査第一課)等による、被害者の心情に配慮した捜査を推進しました。

### 【主な検挙事例】

- ・ 帰宅途中の女性を刃物で脅し、わいせつな行為をした強制わいせつ・脅迫事件 (H25. 6 捜査第一課、機動捜査隊、福井 合同捜査)
- ・ 女子児童を無理やり車に押し込んで連れ去ったわいせつ略取・監禁事件 (H25. 8 捜査第一課、鯖江 合同捜査)

	H24	H25	増減
女性対象犯罪(※)の認知状況(件)	137	135	-2

※ 女性が被害者となった強姦、強制わいせつ、公然わいせつ、暴行、傷害

#### 3 ストーカー、DV事案等の恋愛感情等のもつれに起因する暴力的事案の取締り

重大事件に発展するおそれ大きいストーカー、DV事案等に対し、被害者の安全を最優先に、各種法令を適用した取締りを推進しました。

### 【主な検挙事例】

- ・ 元交際相手の実家に手紙を送りつけ、周辺をうろつくなどした、ストーカー規制法違反事件 (H25. 6 生活安全企画課、福井 合同捜査)



人身安全関連事案に係る生活安全・刑事課長等会議

## ■ 暴力団等組織犯罪対策の推進

### [ 警察 ]

#### 1 暴力団等反社会勢力の取締りと資金の剥奪

平成25年における暴力団構成員等の検挙人員は、傷害や窃盗等の刑法犯72人、覚せい剤取締法違反等の特別法犯45人の合計117人で、前年より17人増加しました。

##### 【主な検挙事例等】

- ・ 飲食店経営者にみかじめ料を要求した暴力団員に対し、暴力団対策法に基づく中止命令を発出して資金源を遮断 (H25. 7 敦賀)
- ・ 知人の店が営業妨害されたと言いがかりをつけて現金を脅し取ろうとした、暴力団員による恐喝未遂事件 (H25. 10 鯖江)

#### 2 暴力団排除のための積極的な情報提供と、危害を加えられるおそれのある県民の保護等、社会における暴力団排除活動の推進

平成25年10月、暴力追放福井県民福井大会を開催したほか、県議会議員および市議会議員に対する不当要求等対応研修会を行いました。また、事業者に対する暴排講習を実施し、社会における暴力団排除活動を推進しました。

##### 【主な取組】

- ・ 福井県公益事業暴力団排除条例推進連絡会の開催 (H25. 4)
- ・ 用心棒料の利益供与を行った事業者と供与を受けた暴力団員に対して、福井県公安委員会が条例に基づく勧告を実施 (H25. 6 敦賀)
- ・ 福井駅西口再開発事業暴力団等排除対策協議会の設立 (H25. 11)



暴力追放福井県民福井大会

#### 3 規制薬物、脱法ハーブ等薬物および銃器事犯の取締りによる需要・供給の遮断と不法収益の剥奪

平成25年における薬物犯罪の検挙人員は58人で、前年より11人増加しました。

銃器事犯では、遺品(軍用)拳銃1丁を押収しました。

##### 【主な検挙事例】

- ・ 福井市内を中心に覚醒剤を密売した覚せい剤取締法違反事件 (H25. 5 組織犯罪対策課、県下7署 合同捜査)
- ・ 覚醒剤を譲渡し、譲渡代金を知人名義の口座に振り込ませて収益を隠匿した覚せい剤取締法違反、麻薬特例法違反事件 (H25. 12 福井)



押収した覚醒剤等

#### 4 来日外国人犯罪組織の取締りを強化するなど、犯罪のグローバル化・犯罪インフラ対策の推進

他府県警察との共同捜査のほか、在留資格の不正取得など犯罪インフラ対策に努め、来日外国人犯罪組織の取締りを推進しました。

##### 【主な検挙事例】

- ・ ブラジル国籍の男らによる窃盗(タイヤ盗)事件 (H25. 8 自動車警ら隊、福井南 合同捜査)
- ・ ベトナム国籍の女4人らによる偽装結婚(電磁的公正証書原本不実記録・同供用)事件 (H26. 2 組織犯罪対策課、鯖江 合同捜査)



押収したタイヤ

## ■ サイバー犯罪の取締り

[ 警 察 ]

### 1 不正アクセス、ウイルス等を利用する悪質事犯の検挙

平成25年におけるサイバー犯罪の検挙件数は26件で、前年より6件増加しました。

【主な検挙事例】

- ・ 他人のパスワードを、「救済機能」を利用して変更し、不正にアクセスしてメールを盗み見た不正アクセス禁止法違反、私電磁的記録不正作出・同供用事件 (H25. 6 生活環境課、福井、越前 合同捜査)



サイバー犯罪アドバイザー研修

### 2 サイバー犯罪に的確に対応するための体制強化と捜査力の向上

「サイバー犯罪特別捜査班」を新設するとともに、サイバー犯罪の知識・技能に精通した警察官「サイバー犯罪アドバイザー」42人を育成して全警察署に配置するなど、人的基盤を強化しました。

## ■ 生活経済事犯等の取締り

[ 警 察 ]

### 1 ヤミ金融等の悪質商法、不法投棄事案等の環境事犯の検挙

悪質なヤミ金融事犯や高齢者をターゲットとした送り付け商法等の悪質商法の取締りを推進しました。

【主な検挙事例】

- ・ 注文のない健康食品を高齢者に送り付け代金を騙し取った詐欺事件 (H25. 10 福井県警察、埼玉県警察等 合同捜査)



押収した健康食品

### 2 犯罪利用口座等の犯行ツール無力化対策の推進

金融機関に対する口座凍結情報の提供や電話事業者に対する携帯電話の契約者確認を行い、犯行ツール無力化対策を推進しました。

【犯行ツール無力化対策の推進状況】 (単位:件)

	H24	H25	増減
口座凍結情報提供数	225	218	-7
携帯電話契約者確認	6	53	+47

### 3 悪質な風俗事犯の取締り

健全で魅力あふれる繁華街を再生するための取組の一環として、悪質な風俗関係事犯の取締りを推進しました。

【主な検挙事例】

- ・ 福井市片町地区において客引きを行った風営法違反事件 (H25. 4 生活環境課、福井 合同捜査)
- ・ 海外のカジノサイトに接続してインターネットカジノ店を開設し、客に賭博をさせた常習賭博事件 (H25. 10 生活環境課、福井 合同捜査)



インターネットカジノ



## 第4 交通事故から県民を守る

### ■ 高齢者対策の推進

#### 【高齢交通弱者対策】

##### [ 警察 ]

#### 1 交通事故多発地域における交通安全指導や反射材普及による街頭啓発活動の強化

平成25年は、高齢者の自宅周辺で事故が多発している実態の周知や高齢者交通安全リーダー等と連携した個別指導を行いました。また、新たにホームセンターを反射材普及協力店とし、反射材の重要性と着用効果を訴えました。

さらに、12月からは、夜間、交通事故に遭いそうな高齢者を発見した際に反射材タスキを貸与するなど、街頭啓発活動を強化しました。



反射材普及協力店における各種反射材の陳列・販売

#### 2 危険歩行者発見時の緊急通報を促す「交通安全“おたすけコール”運動」の推進

交通安全教室等の各種会合を通じて、「交通安全“おたすけコール”運動」の周知を図りました。

#### 3 自転車シミュレーターなど交通安全体験機材を活用した参加・体験・実践型の交通安全教室の推進

加齢に伴う身体機能低下を自覚してもらい、身体機能の変化に応じた行動を心掛けてもらうため、座学講習と合わせ、「歩行者横断トレーナー」や「自転車シミュレーター」等の参加・体験型機材を活用した交通安全教育を推進しました。



自転車シミュレーターを活用した交通安全教室

##### [ 県 ]

#### 1 「反射材ピカピカ大作戦」の展開による高齢者の夜間事故防止活動の強化

夜間歩行中の高齢者の死亡事故が多発したことを受けて、事故発生箇所付近の量販店等において集中的な反射材貼付活動を行いました。

- ・ 反射材貼付者数 約21万5千人



ピカピカキャラバン隊による反射材貼付活動

#### 【高齢運転者対策】

##### [ 警察 ]

#### 1 事故を捉えた個別の運転適性診断と安全運転指導の推進

平成25年は、各警察署において、複数回の交通事故歴を有する70歳以上の高齢運転者を対象に、可搬型運転操作検査器を活用した運転適性診断や個別の安全指導を行うなど、高齢運転者が第一当事者となる事故の抑止対策を推進しました。



可搬型運転操作検査器を活用した運転適性診断

[ 県 ]

1 加齢による身体機能低下を自己診断する出前型交通安全教室の実施

高齢運転者向けの安全運転教室において、運転に必要な身体機能や記憶力・判断力の低下に関する自己診断を実施し、安全運転意識の高揚を図りました。

- ・ 高齢者安全運転教室参加者 2,670人



高齢者向け安全運転教室

2 市町や関係機関と協力し、交通手段等の確保や家族、地域など身近な人からの呼びかけ運動を実施し、安全運転に不安がある高齢者の自動車運転からの引退を促進

運転免許自主返納者への支援を事業者に呼び掛け、協力が得られたタクシー運賃割引や施設料金割引等の支援内容を取りまとめて高齢運転者に周知し、免許返納を促進しました。

- ・ 75歳以上の高齢者の免許返納者数 641人



高齢免許返納者サポート制度のリーフレット

■ 悪質危険運転者対策の推進

[ 警察 ]

1 交通事故に直結する悪質・危険性の高い飲酒運転、無免許運転、高速度運転等の取締り

交通事故に直結する悪質・危険性の高い違反の取締りを推進しました。

【取締り状況】	(単位:件)		
	H24	H25	増減
飲酒運転	275	285	+10
無免許運転	128	116	-12
速度違反(20km/h以上)	11,673	11,114	-559



交通検問・取締り活動

2 飲酒運転根絶気運の高揚のための広報啓発活動の推進

県下の小学生と家族約600組をリュウピー・リュウミー交通保安官とファミリー隊員に任命して啓発活動を行ったほか、ハンドルキーパー運動の普及促進、市町別の飲酒運転取締り状況を表した「飲酒運転者マップ」の公表等、飲酒運転根絶に向けた総合的な対策を推進しました。



リュウピー・リュウミー交通保安官任命式

3 車両や酒類の提供者、同乗者など飲酒運転周辺者の取締り

飲酒運転を助長する違反の根絶に向けた取締りを推進しました。

【飲酒運転周辺三罪の取締り状況】	(単位:件)		
	H24	H25	増減
要求・依頼同乗罪	16	14	-2
車両提供罪	4	1	-3
酒類提供罪	0	0	±0



暴走族の流入阻止検問

4 暴走族による違法行為の取締り

平成25年7月、8月に、「旧車會」等の県外暴走族の流入を阻止するため、関係所属が合同で大検問を実施したほか、暴走族の解体に向けて、警察内の各部門が連携し、各種法令を適用した取締りを推進しました。

## ■ 通学路の安全対策の推進

### [ 警察 ]

#### 1 「通学路一斉交通取締日」における車両等の交通指導取締りの強化

毎月2回、「通学路一斉交通取締日」を設定して、県下一斉の通学路における交通指導取締りを実施し、平成25年中、通学路において、通行禁止違反や一時不停止等で2,185件を検挙しました。

#### 2 信号機等の交通安全施設の整備、交通規制の見直し等による通学路の安全確保

平成24年に県教育委員会等と実施した通学路における緊急合同点検の結果を踏まえ、平成25年8月に、信号機10基を新設したほか、横断歩道の新設や交通規制の見直し等、通学路の安全対策を講じました。

#### 3 児童、生徒に対する視聴覚教材を活用した交通安全教育の実施

児童、生徒に基本的な交通ルールを遵守させ、交通マナーを実践させるため、DVD等の視聴覚教材の活用や寸劇等による交通安全教育に取り組みました。



信号機の新設

### [ 県 ]

#### 1 通学路の交差点を中心とした街頭指導の実施

四季の交通安全県民運動期間等において、市町や関係機関・団体、企業等が通学路の交差点を中心とした街頭指導を実施しました。

- 交通安全県民運動期間中の交差点における街頭指導箇所数 742か所

#### 2 小中学生の通学路における歩道拡幅やガードレール設置、通学経路の見直しなど安全な歩行空間の整備

学校、道路管理者および警察署等の関係者が連携して、通学路の危険箇所の改善を行いました。

- 通学路の歩道整備箇所 県管理道路 12か所 2.5km  
市町管理道路 57か所 16.0km



通学路の歩道整備

#### 3 高校生の通学時の利用が多い路線における自転車が安全に利用できる走行空間の整備

高校生の通学路を、自転車ネットワーク路線として選定し、歩道の段差解消や歩道内の分離などを行いました。

- 段差解消箇所 17か所、歩道分離箇所 93か所

#### 4 高校における自転車安全利用教室や自転車通学者に対するマナーアップ指導の実施

県内の高校生を対象に、自転車シミュレーターを使用した自転車利用教室を12校で開催するとともに、登下校時において全高等学校一斉指導を行うなど、自転車の安全運転の実践および意識の向上を図りました。

- 自転車利用教室受講者数 4,453人
- マナーアップ指導生徒数 2,035人



高校における自転車安全利用教室

## ■ 被害軽減対策の推進

### [ 警察 ]

- 1 シートベルトの全席着用を定着させる広報啓発活動と交通安全教育の推進
- 2 チャイルドシートの正しい使用を定着させる広報啓発活動と指導の推進

シートベルト着用効果体験車を活用した参加・体験型の交通安全教育や広報啓発活動を実施し、シートベルト着用およびチャイルドシート使用の定着化に努めました。

#### 【シートベルト、チャイルドシート着用率】 (単位:%)

	H24	H25	増減
運転席シートベルト	97.2	97.0	-0.2p
助手席シートベルト	90.3	93.6	+3.3p
後部座席シートベルト	29.6	33.2	+3.6p
チャイルドシート	64.0	54.0	-10.0p



シートベルト着用効果体験車を活用した交通安全教育

- 3 児童・幼児を始め、広く自転車利用者にヘルメットの着用を促す広報啓発活動と交通安全教育の推進

福井県交通安全協会等と連携し、「交通安全子ども自転車県大会」の開催やDVD等の視聴覚教材を活用した交通安全教育を実施したほか、スマートサイクル広報大使による自転車教室を開催するなど、自転車用ヘルメットの着用促進に向けた取組を推進しました。



交通安全子ども自転車県大会

## ■ スロードライブの推進

### [ 警察 ]

- 1 交通情報板等を活用した「速度警報」、「速度注意報」の発令

月曜から日曜までの7日間で、悪質な速度違反車両が増加した場合、警察本部長名の「速度警報」または「速度注意報」を発令し、交通情報板への掲示やラジオ広報等により、県民の速度遵守意識の高揚を図りました。

- ・ 平成25年中の速度警報発令 1回、速度注意報発令 7回

### [ 県 ]

- 1 登下校中に交通事故が発生した道路や主要幹線道路におけるスピードガンによる速度調査や大規模街頭活動の実施

登下校中に交通事故が発生した道路やその周辺道路において、通行車両の速度調査を実施し、状況を市町や関係機関に注意喚起したほか、市町や関係団体と協力して「一斉スロードライブデー」を行いました。

- ・ 速度調査実施箇所数 10か所
- ・ 主要幹線道路における大規模街頭活動 5か所

- 2 イベント会場等での衝突体験による家族へのスロードライブの呼びかけ

イベント会場において衝突時の擬似体験会等を開催(計11回)し、家族がドライバーに安全運転を呼びかける契機としました。

- ・ 衝突体験者数 6,040人



一斉スロードライブデーの大規模街頭啓発



イベント会場での衝突体験

## ■ 「脱！クルマ依存社会」の推進

[ 県 ]

### 1 カー・セーブデーやパークアンドライドによる通勤時の車の利用を控える運動の推進

県、市町、交通事業者等で構成する「クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議」が中心となり、県内8箇所で開催イベントにブースを出展しカー・セーブデーやパークアンドライドへの取組を呼びかけました。

また、クルマに頼り過ぎない社会づくり推進月間(10月)に新聞やテレビの広告、雑誌への記事掲載等を行い、カー・セーブ運動の全県的な啓発活動を実施しました。

- ・ カー・セーブ参加企業・団体数 231団体

### 2 自転車イベント情報の発信や自転車走行推奨ルートマップ作成による自転車利用の促進

イベント情報や推奨ルートマップを周知するとともに、3km以内の自転車利用を推進する「福井バイコロジスト宣言」の登録者を募集し、自転車利用の促進を図りました。

- ・ バイコロジスト宣言者数 1,050人

### 3 イベント会場での自転車安全利用教室による自転車の交通ルール遵守とマナー向上の徹底

イベント会場等において、自転車シミュレーター利用した安全教室を開催し、自転車の交通ルール遵守とマナー向上の徹底を呼び掛けました。

- ・ イベント会場での自転車安全利用教室参加者 2,416人



イベント会場での啓発活動



自転車走行推奨ルートマップ



イベント会場での自転車安全利用教室

## 第5 テロ、大規模災害等から県民を守る

### ■ テロ未然防止対策の推進

#### [ 警 察 ]

#### 1 原子力関連施設、公共交通機関等に対するテロの未然防止対策の強化

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により原子力関連施設のぜい弱性が露呈したことに対応し、県内の原子力関連施設において、警戒要領の見直し、爆発物処理や放射線防護の装備資機材の整備・拡充を図るなど、警戒警備を一層強化しました。

また、平成25年11月には、全国で3例目となる原子力発電所周辺における自衛隊との共同実動訓練を実施したほか、海上保安庁および事業者との合同訓練や原子力規制庁との情報交換等、テロの未然防止対策の強化に取り組みました。



自衛隊との共同実動訓練

#### 2 拉致容疑事案等に対する捜査・調査の推進と沿岸警備協力会と連携した沿岸線の警戒

本県で発生した北朝鮮によるアベック拉致容疑事案および拉致の可能性を排除できない行方不明事案の捜査・調査ならびに各沿岸警備協力会と連携した沿岸警備対策を推進しました。

特に、平成25年は、県警察のホームページに、拉致の可能性を排除できない行方不明者のうち、御家族の同意が得られた方について、氏名や事案概要等を掲載し、広く情報提供を呼び掛けたほか、12月の「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」に合わせて、県内の和太鼓チームと共に拉致問題解決に向けた啓発活動等を行いました。



「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」における広報

#### 3 爆発物の原料となり得る化学物質の販売事業者、ホテル、旅館などと連携した対策の推進

県内のホームセンターや薬局等、爆発物の原料となり得る化学物質を販売する事業者を継続的に訪問し、販売時における本人確認の徹底、盗難防止等の保管・管理の強化、不審購入者発見の際の迅速な通報を呼び掛けるとともに、ロールプレイング方式やブラインド方式による実践演習を繰り返し行うなど、事業者の危機意識の高揚を図りました。

また、ホテル・旅館などに対しても、不審宿泊客に関する即時通報を呼び掛けるなど、協力関係の強化に努めました。



ロールプレイング方式による実践演習

#### 4 サイバー攻撃の被害防止と実態解明の推進

県警察内の「サイバー攻撃対策プロジェクト」による、サイバー攻撃の予兆事案の早期把握、被害の未然防止や拡大防止および迅速な捜査を推進しました。

また、県警察と重要インフラ事業者で構成する「福井県サイバーテロ対策協議会」の運営を通じて、サイバーテロの脅威や情報セキュリティに関する情報提供・意見交換を行ったほか、重要インフラ事業者等への個別訪問、具体的な事案発生を想定した共同訓練を実施するなど、対処能力の向上に取り組みました。



福井県サイバーテロ対策協議会の総会・研修会

## ■ 大規模災害対策の推進

### [ 警察 ]

#### 1 東日本大震災の反省・教訓を踏まえた災害対策の見直し

県警察では、大規模災害発生時の対応について、災害対策検討委員会による組織横断的な検討を継続し、災害警備本部の機能強化等初動態勢の充実、各種災害装備資機材の整備・拡充、行方不明者情報管理システムの構築、110番受理態勢の確保、信号機の滅灯対策等の災害対策を推進しました。



災害対策検討委員会

#### 2 消防、自衛隊など関係機関との合同訓練による部隊の対処能力の向上

職員の非常招集訓練、津波警報伝達訓練を実施したほか、福井県原子力防災総合訓練、倒壊家屋からの合同救出訓練など、自治体、消防、自衛隊等との合同訓練にも積極的に参加して関係機関との連携を強化し、部隊の対処能力の向上に努めました。



福井県原子力防災総合訓練

#### 【平成25年度中の関係機関との合同訓練】

- ・ 福井県原子力防災総合訓練 (6月16日:美浜町)
- ・ 北陸3県警察大規模災害共同図上訓練 (6月25日:福井市)
- ・ 福井県総合防災訓練 (8月25日:鯖江市)
- ・ 福井市消防局との合同救出訓練 (8月30日:福井市)
- ・ 福井県原子力防災図上訓練 (1月22日:美浜町)



福井市消防局との合同救出訓練

#### 3 地震、集中豪雨など大規模災害に備えた装備資機材の充実

災害対策を強化するため、警察施設の非常用発動発電機や救命胴衣、エアートント等の災害装備資機材を整備・拡充しました。

なお、平成25年9月の台風第18号による豪雨災害発生時には、敦賀・小浜警察署の署員を非常招集するとともに、機動隊および管区機動隊を迅速に派遣し、美浜町の土砂崩れ現場等において、被災者の救出救助活動を行いました。



美浜町における救出救助活動

## 6 治安基盤を強化する

### ■ 初動警察活動の強化

[ 警 察 ]

#### 1 通信指令機能の強化と通信指令を担う人材の育成

平成25年6月、初動警察活動における通信指令および無線通話の技能向上を図るため、初動警察対応競技会を開催するなど、通信指令を担う人材の育成に取り組みました。

【110番通報受理件数】 (単位:件)

	H24	H25	増減
有効	35,444	35,965	+521
非有効(いたずら等)	10,929	11,325	+396
総受理件数	46,373	47,290	+917



初動警察対応競技会

#### 2 若手警察官の早期育成と幹部の指揮能力向上による事案対応能力の強化

若手警察官に対しては、実際の現場で発生する可能性の高い事案を想定した実戦的訓練や専門的な知識・技能を有する技能指導官による伝承教養を行ったほか、各所属の訓練指導者に対して、訓練の実施要領や着眼点等の指導を行うなど、指導者の育成にも努めました。

また、幹部または幹部に昇任予定の警察官に対しては、捜査実務に関する研修、突発重大事件・事故等発生時の指揮要領を再確認する図上訓練を行うなど、捜査指揮能力の向上に努めました。



技能指導官による伝承教養

#### 3 優秀な人材の採用・配置

県警察では、関西・中京圏の大学等を対象とした就職ガイダンスや県警察学校での就職説明会を開催したほか、平成25年は、県警マスコット「リュウピー君」「リュウミーちゃん」を特別リクルーターに指定して、イベント会場等でリクルート活動を行うなど、優秀な人材の確保に取り組みました。



リクルーター指定式

### ■ 捜査環境の変化への的確な対応

[ 警 察 ]

#### 1 取調べの録音・録画の試行拡充への的確な対応

取調べの録音・録画の試行は、裁判員裁判対象事件および知的障害を有する被疑者に係る事件について、供述の任意性、信用性等の的確な判断を可能とするためには、どのような方策が有効であるかを検討することを目的に、実施場面を拡充するなどして推進しています。

平成25年度は、新たに6台の録音・録画装置を整備して全警察署へ配置したほか、捜査員への教養を充実させるなど、試行拡充への対応に努めました。



捜査員への教養



## 2 DNA型鑑定や防犯カメラ画像など客観証拠を重視した捜査の推進

平成25年のDNA型鑑定件数は、2,767件でした。

裁判員制度の導入等により、客観証拠による確かな立証が求められており、DNA型鑑定は、殺人事件等の重要犯罪だけでなく、窃盗事件等の身近な犯罪の捜査にも積極的に活用しました。

また、防犯カメラ画像は、犯行状況や犯人像の確認等に有効であり、積極的な活用を図りました。

	H24	H25	増減
DNA型鑑定の件数（件）	2,037	2,767	+730



DNA型鑑定

## 3 犯罪死の見逃し防止に向けた取組の推進

犯罪死の見逃しを防止するため、検視官の現場臨場率の向上に努め、検視支援システムを導入して積極的に活用するとともに、平成25年4月1日に施行された「警察等が取扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律」に規定された調査、検査等の措置を実施するなど、適正な検視業務を推進しました。

### ■ 警察施設・装備の整備充実

[ 警察 ]

#### 1 地域の治安の要となる警察署や交番・駐在所など警察施設の充実整備

#### 2 警察活動を支える装備の充実整備

県警察では、地域住民に密着した警察活動を行うため、その基盤となる警察署や交番・駐在所等の警察施設の計画的な整備および耐震補強を行っています。

平成25年度は、福井警察署花月交番、福井南警察署明里交番、同署グリーンハイツ駐在所、小浜警察署上中交番の建替えを行ったほか、運転者教育センターの耐震補強工事、嶺南運転者教育センターの耐震補強計画および実施設計を行いました。



小浜警察署 上中交番

### ■ 交番機能の強化

[ 警察 ]

#### 1 警察分庁舎の活用による地域住民の安全性・利便性の確保

第二次警察署再編として、平成25年4月1日、永平寺町が福井警察署の管轄区域になり、永平寺警察署は福井警察署永平寺分庁舎になりました。分庁舎には松岡交番を併設し、分庁舎長の下、24時間3交代で勤務する地域警察官のほか、交通係員や警察安全相談員を配置しました。

警察署の規模が拡大したことにより、パトロール体制や夜間・休日体制が強化されるとともに、大規模な事件・事故が発生した際における警察官の大量動員が可能となるなど、事件等への対処能力が向上しました。



福井警察署 永平寺分庁舎

## 2 交番相談員の効果的運用による街頭活動の強化

県下の全交番に交番相談員等を配置し、地理案内や通学路における見守り活動、遺失物や拾得物の受理・処理等の業務を行っています。

これにより、警察官がパトロール等に従事する時間を確保し、地域の犯罪情勢に即したパトロールや巡回連絡を実施するなど、「見える・見せる活動」を強化しました。



交番相談員の活動

## 3 交番・駐在所の所管区の見直し等による地域に根ざした活動の推進

地域住民と連携した活動を促進するため、平成25年4月から、交番・駐在所の所管区を公民館区と同一の区域に見直しました。

公民館が有する情報伝達網を活用し、交番・駐在所独自のミニ広報誌の回覧、犯罪や事故の発生情報等の発信を積極的に行ったほか、地域住民の意見・要望に応じたパトロールを実施するなど、地域に根ざした活動に取り組みました。



地域警察官による  
パトロール活動

平成26年4月24日

福 井 県 知 事

西 川 一 誠

福井県公安委員会委員長

三 浦 將 司

福 井 県 警 察 本 部 長

野 村 護